

意見書

平成 22 年 3 月 5 日

総務省情報通行政局
情報流通振興課 へ

MVNOを創る会代表 児玉 洋

スマート・クラウド研究会 中間取りまとめ(案)「スマート・クラウド戦略」に関し、
別紙のとおり意見を提出します。

スマートクラウド戦略 意見

頁	項目	意見
5 ページ	<p>第2章 クラウドサービスの普及に向けた基本的考え方</p> <p>(2) 社会インフラ高度化の実現</p>	<p>(総務省案)</p> <p>社会インフラの高度化を図る場合、</p> <p>(意見)</p> <p>社会インフラの高度化は、デジタルに疎い利用者を含め、そのサービスを享受できて初めて実現されたと言えると思います。</p> <p>社会インフラの高度化を図る場合、インフラ整備だけでなく、サービス視点、ITに疎いユーザーの視点を十分に考慮し(本当の意味で誰でも使えるインターフェースなど)検討していただきたいと思います。</p>
		<p>(総務省案)</p> <p>民間部門の連携、官民連携</p> <p>(意見)</p> <p>民間でクラウドサービスを提供する場合、サービス内容によっては、ユーザーの業務知識をはじめ様々な情報が集積される事になります</p> <p>また民間連携については、そもそも障壁がある内容です。</p> <p>英国と同様に国として開示必要の情報の基準、ルールなどの設定及び開示をお願いします。</p>

8 ページ	<p>第2章 クラウドサービスに向けた基本的考え方</p> <p>4 クラウドサービスの普及に向けた基本3原則</p> <p>原則1 先ずは多様なクラウドサービスの利活用を促進する</p>	<p>(総務省案)</p> <p>これを達成するためには多様なユーザ群（例えば、一般世帯、中小企業,,,,,) ごとにクラウド、、、</p> <p>(意見)</p> <p>ユーザー層に合致した施策展開は大いに賛成ですが、より細かい、視点を変えた分類をお願いしたいです。Digital Native 層、Analog Native 層（おじいちゃん、おばあちゃんなど）については、利用への障壁がかなり異なるはずですし、ICT 利活用の国民に展開されたと言える最終形は、“意識しない”、“無意識下”でのサービス享受だと思いますので</p>
-------	--	---

<p>13ページ</p>	<p>第3章 クラウドサービスを通じたICT利活用の徹底 前段</p>	<p>(総務省案) 前段全般に関して (意見) クラウドという“言葉”は世の中に広まっていますが、導入に至るには様座な障壁があり、ブレイクにはまだまだ感があります。 1つは 法律の問題 (↓参考 SOX法に抵触するのではないか?) があるように思います クラウドで提供されるサービスとその法的問題点、現在、問題であるだろう点を明確にし、ユーザーに指針と共に提供することを望みます 米国 Forrester Research の最新の調査レポート http://www3.idg.co.jp/j.x?v=2501&u=1123728</p>
<p>14ページ</p>	<p>第3章 クラウドサービスを通じたICT利活用の徹底 (2) 医療クラウド</p>	<p>(総務省案) 医療分野においては、、、、EHRや、、実現する必要がある (意見) EHRのみならず 来るべき高齢化社会、医師不足などの医療問題を踏まえて、日常生活から健康管理が必須となると思いますので、PHRへの言及、PHRを視野に入れた検討をして頂きたいと思ます。</p>

<p>14ページ</p>	<p>第3章クラウドサービスを通じたICT利活用の徹底 (3) 教育クラウド</p>	<p>(総務省案) 教育クラウドについて全般 (意見) 国民の寿命も延び、シルバー層、団塊世代など、豊富な経験、スキルを持ち社会貢献に意欲のある人もたくさんいると思います。第2の人生の“やりがい”の為に、その方たちをターゲットとした教育クラウド、知の共有クラウドなども検討の対象にして頂きたいと思います。 例えば 介護サービス、例えば、利権抜きコンサルなど</p>
<p>16ページ</p>	<p>第3章クラウドサービスを通じたICT利活用の徹底 3. スマートクラウド基盤の構築による社会インフラの高度化</p>	<p>(総務省案) 第3に、、、センサーを介して、、、河川情報、、、クラウドサービスによって、、、最適な避難経路をデジタルサイネージ経由で、、、 (意見) 大賛成です。今は無線ネットワークインフラもMVNOが活性化できる状況になりつつあるので、是非、行っていただきたい。 無線インフラ上に総務省案サービスをのせる事により、センサーネットワークサービスシステムのレンタルサービスやサイネージの (DEVICE込みの)ネットワークインフラが構築できる事になりそこに新たなサービス(コンテンツ)が発生する環境が生まれること</p>

		<p>になると思いますし、また、地方自治体主導で行うことで地域産業の活性化や新たな雇用、地方自治体同士の連携による新たなサービスのあり方も生まれると思います。公共投資はいつまでもダムや道路だけでなく、こういったICTインフラ事業をクローズアップして頂きたいと思います。</p>
24ページ	<p>第3章クラウドサービスを通じたICT利活用の徹底</p> <p>6. クラウドサービス導入に向けた政策支援</p> <p>(2) クラウドサービス事業者への支援</p>	<p>(総務省案)</p> <p>SAAS事業者の提供するサービスの事業継続性、、一定程度の省エネルギー効果を有するクラウド関連設備投資について、、</p> <p>(意見)</p> <p>減税措置があるとないとでは導入意識、クラウド業界の広がりには大きな違いがあると思うので賛成です</p> <p>また</p> <p>導入事業者が安心して利用できるようにデータセンターなどについては、、基準を明確にし、情報保護や省エネ対策観点にての組織体制を含めた認定制度(PマークやISOなどに似た)を設けてそれを公表して、指導いただけるようにしていただきたいと思います。</p>
全般	全般(ビジネスモデル)	<p>(意見)</p> <p>クラウドサービスは利用側からすると、設備、サービスを買取ることなく安価でサービスを受けられる、“お試し”が可能であるというメリットがあり、また、Digital Native層にとっても、“使ってみてよければ金を払う”という利点がありますが、提供側からするとITにおけるロングテール、フリーミアム理論の広がりもあ</p>

		<p>るようにビジネスとしても難しいものであると感じています。</p> <p>知、アイデアの共有ではないのですが、新たなビジネスモデルの検討への政府支援をお願いしたいと思います</p>
全般	全般（広くアイデアの収集共有）	<p>（意見）</p> <p>今後、それぞれに関して検討会などが開かれていくと思いますがいつも、外から見ていると 大学教授、コンサル、大手S i e rの経営層など現場の“肌感覚”と遠い人たちがメインで行われている感じがします。もっと幅広い“現場の肌感覚”を持ったアンテナ高い人たちの意見も取り入れて欲しいと思います。</p> <p>例えば この意見募集に意見を出した人、その人の信頼できる人（ジェントルマンズアグリーメント）で構成された“クローズされた人的なネットワーク”で 例えば TWITTER などを利用して意見を拾っていくなど（→知の共有クラウド）</p>